



豪州準備銀行の景気判断引き上げと豪ドル相場

- 豪州準備銀行(RBA)は政策金利据え置きを決定。声明文では設備投資と雇用に関する景気判断を小幅引き上げ。
- RBAは「設備投資の回復基調が強固になることは望ましい前進」と評価。市場は18年央頃の利上げ開始を織り込む。
- 米ドル高を背景に豪ドル相場は小幅調整。米ドル高の中でも投機筋は豪ドルへの買い持ちポジションを積み増す傾向。
- RBAの利上げ観測が豪ドル相場の下支え要因に。各国金融政策の方向性に応じ、主要先進国の金利環境は二極化。

RBAは13会合連続で政策金利を据え置き

豪州準備銀行(RBA)は10月3日の金融政策理事会で、政策金利を1.50%に据え置く決定を下しました(図1)。RBAによる政策金利の据え置きは、2016年9月以降、13会合連続となりました。

RBAは設備投資と雇用に関する判断を引き上げ

今回の理事会の声明文では、企業による設備投資と雇用に関する景気判断が小幅に引き上げられました。

設備投資に関しては、「非鉱業部門の設備投資の回復を示すより多くの兆候がみられた」との言及がなされ、RBAは「このトレンドが強固になることは望ましい前進である」と企業の事業環境改善を評価する姿勢を示しています。声明文では企業の設備投資を後押しする要因として、高水準の企業景況感や設備稼働率の上昇、大規模なインフラ投資計画などが挙げられました。

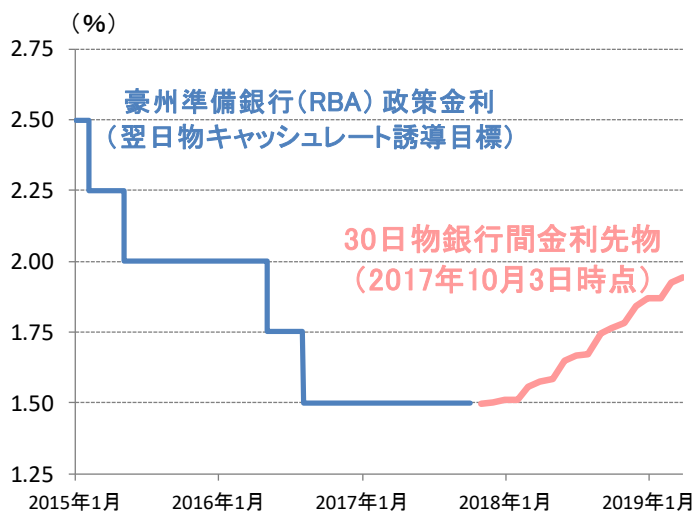
8月の雇用者数は市場予想を上回る増加に

一方、雇用に関しては、2017年8月の雇用者数が前月比+5.4万人と市場予想(前月比+2.0万人)を上回る増加となったことを受けて、「雇用は最近数カ月にわたり力強い伸びを継続している」、「雇用はすべての州で増加し、労働参加率の上昇を伴っている」との評価を示しました(図2)。

市場は2018年央頃の利上げ開始を織り込む

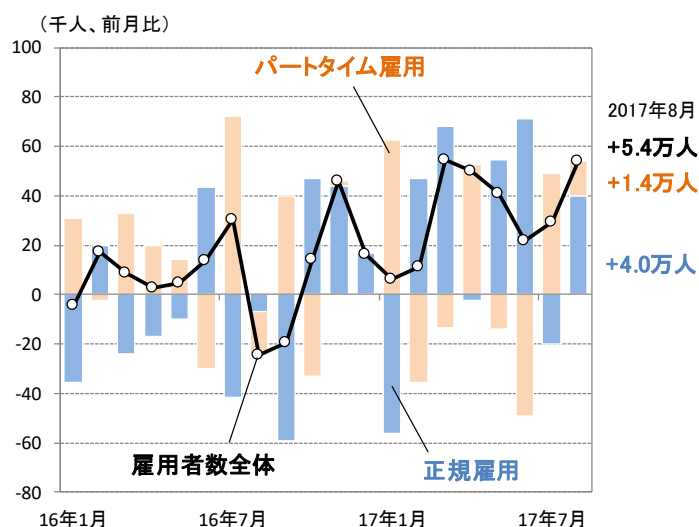
今回、RBAは金融政策の判断に関しては政策据え置きが適切との見方を維持しましたが、RBAが景気回復への自信を深めつつあることが示されたことは将来の利上げ転換に向けた前進と捉えることができます。現在、銀行間金利先物市場では2018年央頃のRBAによる利上げ開始が織り込まれています(図1)。

図1: 豪州準備銀行(RBA)政策金利と金利先物



(出所)ブルームバーグ (期間)2015年1月1日~2017年10月3日
(注)30日物銀行間金利(キャッシュレート)先物は2017年10月限から2019年3月限まで。

図2: 豪州の雇用者数増減



(出所)豪州政府統計局(ABS) (期間)2016年1月~2017年8月

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。



米ドル高を背景に豪ドル相場は小幅に調整

為替市場では、2017年9月に一時は1豪ドル=0.80米ドル台まで上昇した豪ドル相場は、足元では同0.78米ドル前後へ小幅下落しています(図3)。豪ドルの対円相場は、9月20日に1豪ドル=90円台まで上昇した後、足元は同88円台での推移が続いています。

対米ドルでの豪ドル相場の小幅調整の背景には、対主要通貨に対するこれまでの米ドル安基調が足元で米ドル高方向に転換していることが挙げられます。トランプ政権と米議会指導部による税制改革案の公表や、底堅い米経済指標などが米ドル高を下支えている模様です。

投機筋は豪ドルの買い持ちポジションを積み増し

もっとも、主要7通貨に対する投機筋の先物建玉を見ると、米ドル高基調の持続性に対する不透明感から、投機筋は米ドル安が進む中でも米ドル売り持ちポジションを積み増しています(図4)。米税制改革に関して、減税の財源などの分野で議会審議が難航する可能性もあります。

こうした中、投機筋は豪ドルに対する買い持ちポジションを積み増す傾向にあり、9月26日時点の豪ドル買い(米ドル売り)ポジションは+61億米ドルへ拡大しています。

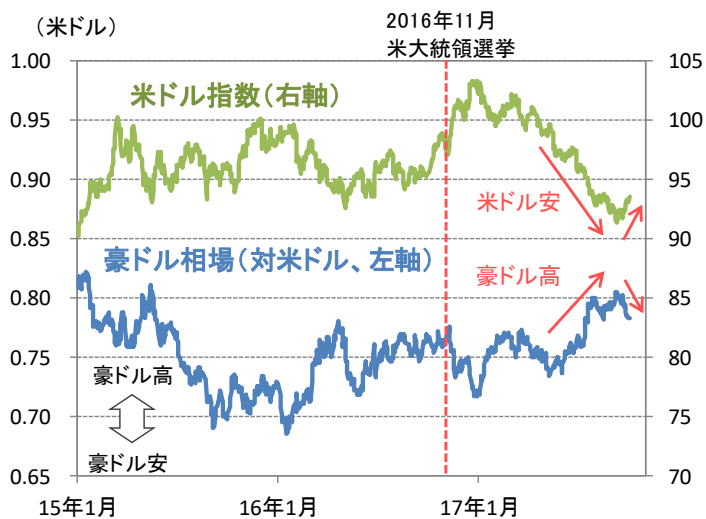
RBAの利上げ観測が豪ドル相場の下支え要因に

足元で投機筋などによる豪ドル買いが根強い背景として、RBAによる2018年の利上げ転換観測から豪州国債利回りが上昇傾向にあることが挙げられます。

豪州の2年国債利回りは10月2日時点でRBAの政策金利を上回る1.96%まで上昇しています(図5)。これに対して、主要先進国の2年国債利回りを見ると、米国では連邦準備制度理事会(FRB)の利上げに伴って緩やかな金利上昇傾向が続いている一方、日本やドイツではなおマイナス金利状態が続いています。

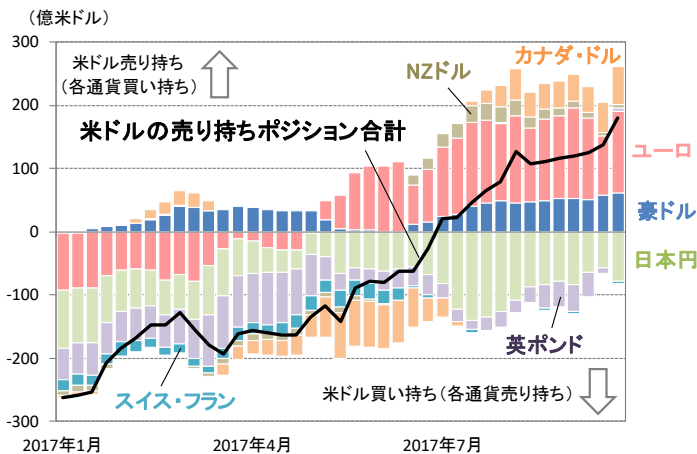
主要先進国の金融市場では、金融政策の正常化に向けた各国金融政策の方向性の違いに応じて金利環境が二極化しつつあり、豪ドル相場の先行きを占う意味でも今後のRBAの金融政策への注目が集まりそうです。

図3: 豪ドル相場と米ドル指数の推移



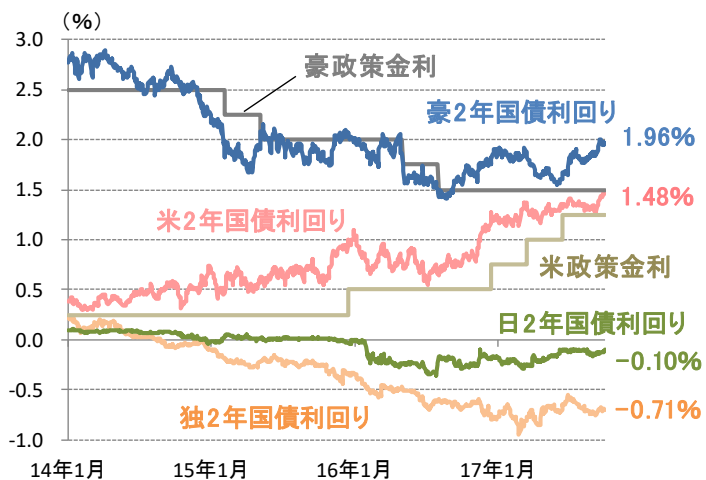
(出所)ブルームバーグ (期間)2015年1月1日~2017年10月2日

図4: 主要7通貨に対する投機筋の先物建玉



(出所)ブルームバーグ (期間)2017年1月3日~9月26日

図5: 日・米・豪・独の2年国債利回りの推移



(出所)ブルームバーグ (期間)2014年1月1日~2017年10月2日

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。